

■ 『自然と実学』 第5号 (2020年4月20日)

【表紙】挿図 宮崎安貞『農業全書』より

【目次】

【巻頭詩】

欧陽禎人「劍鑄千代滄桑 四首」 (1)

【特集】

「近代の暴走と実心実学」第15回<東アジア実学>国際フォーラム (8)

【基調報告・コメント】

片岡龍「いのちといのちの響き合いとしての「実心実学」」 (19)

〈コメント〉本郷隆盛「片岡龍・基調報告について」 (27)

【論壇】

金鳳珍「東アジアの「儒教的近代」と日本の「兵学的近代」」 (30)

大橋健二「長寿社会と現代文明——東アジア〈西洋近代〉受容共同体のアポリアと展望——」 (49)

金ボルム「『主制群徴』の伝来と受容—人体論にたいする韓中日の理解を中心に」 (68)

欧陽禎人「新文化運動に対する劉咸炘の態度」 (92)

板垣雄三「イスラーム文明から実心実学を見るパースペクティヴ」 (105)

【若手研究者論壇】

閻秋君「清仏戦争期における日中近代化の相違性の一考察—清国紀行文『観光紀遊』の鉄道建設論を手がかりに—」 (125)

王一兵「世界地理学の発達と蘭学者の対外認識 —大槻玄沢の北方研究を中心に—」 (137)

范帥帥「三十年代の鈴木大拙の思想変容について」 (146)

ハンデンシ「日本中世末期における宋学の受容 清原宣賢の『大学聴塵』を中心として」 (160)

保泉空「近代への祈り——吉満義彦における超克論を中心として——」 (171)

【書評】

趙晟桓「天地と一緒に、民衆と共に」小松裕著『참된 문명은 사람을 죽이지아니하고 (眞の文明は人を殺さず)』 (상추쌤, 2019) (178)

【『自然と実学』創刊にあたって 小川晴久】 (184)

【編集後記・奥付】 【入会のご案内】 【入会申込書】